

JLEM News Letter Vol.54



第60回日本語教育方法研究会開催

第1日 30周年記念イベント 参加者 98名

第2日 発表 66件 参加者 213名

第61回はオンライン開催にて

2023年3月18日(土)、19日(日)、第60回日本語教育方法研究会が東京工業大学で開催されました。2日にわたる研究会は、延べ311名参加という盛況ぶりでした。

3月17日(金)には、運営委員会が開かれました。議事については、このレターの記事をご覧ください。

次回の第61回研究会は2023年9月9日(土)にオンラインで開催されます。皆様、奮ってご参加ください。

開催を終えて

佐藤 礼子

(東京工業大学)

30周年記念大会(第60回研究会)は、2023年3月18日(土)・19日(日)の2日間にわたって東京工業大学の岡山キャンパスで開催されました。会場での開催は、2019年9月以来3年半ぶりで、開催や運営に関わった委員も記憶をたどりながらの準備・開催となりました。18日は30周年記念イベントが開催され、JLEMのこれまでの発表を振り返るお勧め論文の展示や、これからの発表や実践研究につながる分科会、参加者が顔を

合わせて話をする対面ブレイクアウトセッションが開催されました。19日は第60回研究会で66件ものポスター発表があり、ポスターの前や廊下などいたるところで活発で熱気あふれる交流が行われました。久しぶりに対面で話すことができいい機会だったという声を聴くことができ、大変うれしく思いました。ご参加くださったみなさま、ありがとうございます。

本学の学生もお手伝いに参加する機会をとおして、発表内容や意見交換の様子に刺激を受け、研究会開催をささえる立場の経験を得て、よい学びとなりました。研究会開催の機会を与えていただいたことをありがたく思っています。31年目を降も皆様とともに魅力あるJLEMの研究会が続いていくことを楽しみにしております。

次回開催にあたって

内藤 真理子

(事務局)

第61回研究会は、2023年9月9日(土)にオンラインで開催します。

研究会参加者アンケートにおいてオンライン開催を望む方も多かったので、しばらくオンライン開催と対面開催を交互に行いますが、これは暫定的な措置であり、今後も継続するかは未定です。

第61回研究会では、運営上の都合により発表件数の上限を80件とします。発表申込件数がそれを上回った場合には、発表申込をされた方を対象に抽選を行い、発表をしていただく方を決める予定です。抽選から漏れた方は、会誌原稿掲載をもって発表成立とします。詳細については、「発表申込みのご案内」をご覧ください。

30周年記念企画

第60回研究会の1日目、3月18日(土)に、JLEM30周年を記念し「JLEMお勧め論文」「教室でも簡単検索—手軽にコーパスを使ってみよう！」

「JLEMで発表しませんか?—あなたの発表、応援します!」「実践研究の方法」「JLEM発表を経た教材—あの発表が教材に!」の5つの企画が行われました。あいにくのお天気でしたが、75名の方が参加していただき、JLEMらしい和気あいあいとした時間となりました。

参加者の方からは、「皆さんとの話し合いを通して、研究や現場でいろいろなヒントをいただきました

た。」「雨の中でも参加して本当に良かったと思っております。」「全ての企画には参加できませんでした。」「JLEMらしさが表現されていたと思います。」「久しぶりの対面でこういった企画が実施されて JLEM の良さを実感しました。」「会の趣旨がとてもよく伝わってくる素晴らしい会に参加させていただき、ありがとうございました。企画も、それぞれの担当委員の方の熱い思いが感じられ、刺激を受けた一日となりました。」「といったうれしいコメントをいただきました。今回の企画が、皆様にとって JLEM を見つめなおす機会となったのであればとてもうれしいです。

なお、各企画の報告については、以下をご参照ください。

<http://jlem-sg.org/pdf/JLEM30th.pdf>

(中川健司)

第15回 JLEM 優秀賞

JLEM の優秀賞は、オンラインで研究会を開催していたコロナ禍の間、選考を中止していました。今回は第53回研究会（2019年9月14日於福島大学）以来、3年半ぶりに対面での開催となったため、賞の選考を再開しました。

JLEM の「優秀賞」は、①課題の設定やその検証の視点の独自性、②教育実践、研究成果の発展性、③ポスターの作り方（ポスターが見やすいか、内容理解を促進しているか）という3点を基準に審査され、優れた発表を行った会員に授与されるものです。また、優秀賞以外にも顕彰に

値する発表があった場合には「奨励賞」が授与されます。

第60回では、会長、事務局、3名の運営委員で構成される JLEM 賞選考委員会で審査を行いました。結果は、以下のようになりました。

「優秀賞」鈴木綾乃（横浜市立大学）・浅海一郎（内定ブリッジ株式会社）「仕事に必要な日本語とビジネス日本語能力の評価—外国籍社員と日本人社員の比較—」

「奨励賞」板井芳江・寺嶋弘道（立命館アジア太平洋大学）「コーパスツールを用いた継続的なライティング活動—効果的な活用を目指して—」

優秀賞の鈴木・浅海両氏の発表は、今日の日本社会において、喫緊の課題である外国人人材に求められる能力を明らかにしようとした調査である点が評価されました。また、ビジネスの現場で求められる日本語能力・実務能力について、データ収集が困難であるなか、外国籍社員と日本人上司・同僚の両者からデータを収集し、データから両者のギャップを明らかにし、現場で求められる能力・人材像を明らかにしようとした点が評価されました。

一方、奨励賞の板井・寺嶋両氏の発表は、現在、注目されているコーパスを活用したデータ駆動型教育の実践でした。発表で示された手法は参加者が教育現場に持ち帰って取り込むことができる有用なものでした。また、実践の中で学習者が産出した語彙ネットワーク・単文・作文の三者のつながりを明確に示した点も評価されました。今後の発展が期待で

きる研究として、奨励賞に選ばれました。

受賞者のポスターは本会のホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

(佐々木良造)

運営委員会報告

運営委員会は、研究会前日の3月17日(金)に Zoom を用いて開かれました。30名の運営委員のうち20名が参加し、8名から委任状が提出されました。今回の運営委員会で報告・審議されたことを、以下にご報告いたします。

①会員数：

2023年3月16日現在、689名（国内649名、海外40名）。

②運営委員の異動：

2022年度就任：尾沼玄也さん（拓殖大学→編集）、香月裕介さん（神戸学院大学→編集）、内山喜代成さん（桜美林大学→編集）

2023年度就任：鴈野恵さん（筑紫女学園大学→編集）、高村めぐみさん（愛知大学→企画・広報）

2023年度交代：長谷川守寿さん（情報管理→企画・広報）

③発表申込時の届け出と原稿の齟齬への対応：

題目・著者（発表者）は発表申込時に届け出られたものを正式とみなし、その後変更できないことを確認しました。

④研究会誌機関送付先：

刊行1年後に J-Stage で公開されるようになったので、歴代会長所属先5機関への送付を終了し、保存用として送付している、国際交流基金

日本語国際センター・国立国語研究所・国立国会図書館の3機関のみとする。

⑤今後の開催予定：

第61回研究会（2023年9月9日）は、オンライン開催（Zoom）を予定。
第62回研究会（2024年3月3日）は、愛知大学名古屋キャンパスで対面開催を予定。

対面／オンライン開催方法の時期・地域については、事後アンケートも参考にしつつ、継続審議。

また、オンライン開催時の表彰制度について、今後は実施の方向で考え、選考基準や副賞の取り扱いについて検討する。

（松崎寛）

事務局よりご連絡

●発表者の会費支払期限

第61回研究会で発表するためには、発表者（複数の場合は全員）は応募時点で2023年度の会費（2023年4月からの新年度分）を支払っていないければなりません。期限は2023年7月10日（月）です。その時点で入金を確認できない方については、発表申し込みを受け付けることはできませんので、早めに入金を済ませてください。昨年度の会費が未納の場合、今年度に会費を支払っても、昨年度分に充てられるため、今年度分は未納のままとなります。発表申し込みを行う前に、必ず発表者全員が各自の会員ページで会費支払いが済んでいることをご確認ください。

●発表をお断りする場合

本研究会では、以下の場合発表をお断りする場合がありますので、ご承知おきください。

- ①本研究会、または他の学会・研究会で既に発表された内容のもの
- ②研究倫理上問題があると考えられるもの
- ③特定の個人や集団を攻撃する内容のもの
- ④特定の教材、商品、サービス等を宣伝するもの
- ⑤日本語教育との関連が見出せないもの

●住所変更等

JLEMでは、会員管理システムに登録された会員住所に会誌を送付していますが、返送されてくるケースがあります。住所変更等があった場合は、速やかに会員専用サイトにてご自身で会員情報の変更をお願いします。なお、クロネコヤマトのメール便を利用しているため、日本郵便株式会社が行っている転送サービスには対応していません。また、登録の際には、以下の点にご注意ください。

- ・集合住宅にお住まいの場合は建物名まで入力してください。
- ・郵便受けの表札名とご登録の苗字が異なる場合は、住所末尾に「〇〇方」と追記してください。

（内藤真理子）

会費納入について

会計年度は、4月から3月です。前号のニュースレターでもお願いしましたが、研究会のスムーズな運営のためにも、6月30日までにお支払いいただきますようお願いいたします。

す。

また、各研究会の際に会費納入が終了していない場合は、研究会までに会誌が送付されず、後日送付されることとなります。また、それにより、運営委員の手間が増えることとなります。それはともかく、研究会の際、会誌が手元にないと不便だと思いますので、余裕をもってお支払いをお願いいたします。発表申込の締切日を目安とお考えください。

●振込先

①郵便局の電信払込の場合

記号：10140

番号：69076511

加入者名：日本語教育方法研究会

振込者名：（氏名だけでかまいません）

②銀行からの振込の場合

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：018

預金種目：普通

店名：〇一八 店（ゼロイチハチ店）

口座番号：6907651

加入者名：ニホンゴキョウイクホウ
ハウケンキョウカイ

振込者名：（氏名だけでかまいません）

●所属先名で振り込む場合

所属先の前に必ずご登録の会員名をご記入ください。所属先が前だと会員名がカットされることがあります。

●会員番号で振り込む場合

会員番号の前に必ずご登録の会員名をご記入ください。会員番号が前だと会員名がカットされることがあります。

●ご登録の会員名と異なる名義で振り込む場合

必ず振り込みの度に、ホームページ

の「お問い合わせ」より、その旨ご連絡ください。

●振り込む方の名義が外国語で表記される場合

ご登録の会員名が確認できないことがよくあります。特に、中国の方はピンインで表記されることが多いため、ご登録の会員名（JLEMのシステムでは漢字とカタカナのみ）を検索して確認するのに時間がかかっています。お手数ですが、振り込んだというご連絡をいただくと助かります。

（内藤真理子・高橋亜紀子）

ご連絡先をお知らせください

会費をお振り込みいただいた方で、以下の方のお名前が会員名簿で確認できておりません。お心当たりの方は事務局までお知らせください。

2016/09/23 日付け 3000 円振込

「フジタ キョウコ」

2016/09/24 日付け 3000 円振込

「鈴木 聡子」

2017/06/28 日付け 3000 円振込

「オオタカ ヨウ」

2018/09/03 日付け 3000 円振込

「浅井 尚子」

2018/09/08 日付け 3000 円振込

「福良 直子」

2019/03/23 日付け 3000 円振込

「渡邊 美和子」

2019/11/16 日付け 6000 円振込

「カイインバンゴウ 20」

2020/03/29 日付け 9000 円送金

「カイインバンゴウ 201」

2020/08/17 日付け 6000 円振込

「デンキツウシンダイ ハ」

2020/11/04 日付け 3000 円送金

「シヨウワジヨシダイガ」

2021/01/21 日付け 3000 円送金

「XIA YIHU」

2022/01/28 日付け 3000 円振込

「ガク」キョウリンガクエ」

2022/04/28 日付け 3000 円振込

「ドウシヤダイガク」

2022/07/11 日付け 3000 円送金

「SONG YIH」

2022/07/23 日付け 6000 円振込

「ヨシウチ エミ」

2022/07/28 日付け 3000 円振込

「ガツコウハウジン キョ」

2023/01/25 日付け 3000 円送金

「SUN FANG」

2023/01/31 日付け 3000 円振込

「ヒロシマコウギョウダイ」

2023/04/07 日付け 3000 円送金

「トウホクダイガク ユウ」

2023/04/26 日付け 3000 円振込

「フジヨシダイガク」

2023/5/18 日付け 3000 円振込

「ガク」セイガクイン」

（敬称略，5月28日現在）

（橋本直幸）

運営委員会メンバー

会長：松崎寛（日本大学）

事務局：内藤真理子（電気通信大学），
島山理恵（文化学園大学）

会計：伊藤夏実（東京農工大学），
島崎薫（東北大学），高橋亜紀子
（宮城教育大学），平田秀（武蔵
野大学）

編集（ニュースレター担当）：世良
時子（上智大学）

編集（会誌担当）：内山喜代成（桜
美林大学），榎原実香（東京工業
大学），大津友美（東京外国語大
学），尾沼玄也（拓殖大学），香
月裕介（神戸学院大学），鴈野恵
（筑紫女学園大学），工藤嘉名子
（東京外国語大学），栗原通世（国
士館大学），小森万里（大阪大学），
佐々木良造（静岡大学），鈴木綾
乃（横浜市立大学），生天目知美
（東京海洋大学），村上智子（山
梨学院大学）

編集（J-STAGE 担当）：寺嶋弘道（立
命館アジア太平洋大学）

情報管理：佐藤礼子（東京工業大学），
篠崎大司（別府大学／株式会社篠
研），橋本直幸（福岡女子大学）

企画・広報：河野俊之（横浜国立大
学），高村めぐみ（愛知大学），
俵山雄司（名古屋大学），中川健
司（横浜国立大学），根津誠（国
際交流基金），長谷川守寿（東京
都立大学），平山允子（日本学生
支援機構）

日本語教育方法研究会

問い合わせ先：jlem-ml@jlem-sg.org

（レター編集：世良時子）